

「産業社会と人間」指導計画案 実習例

第2章「わたしと仕事」1節「働くために勉強する」

ページ	p.58～61	
所要時間数	1～2時間（家庭学習含む）	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の学習過程を振り返り、「勉強する」ことの意義について考えることができる。 ・働き生きていく上で必要な問題解決能力やコミュニケーション能力と、各教科で身に付ける知識との関係について理解することができる。 ・高校までの学習で身に付く「誰かから学ぶ能力」と大学で身に付ける「自分で学ぶ能力」の違いについて理解し、自分で学ぶ能力が仕事でも必要なことを理解する。（Work①） ・教育が自分自身への投資であることやリカレント教育について理解し、今後の学習について能動的に臨む態度を身に付ける。（Work②） 	
授業展開例		
時間	学習内容・指導内容	留意点
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を読む。 ・Work②の調べ学習に取り組む。 	授業内でコンピュータやスマホを使用できない場合や、調べ学習に時間が取れない場合は、事前に事例を読ませ、Work②の学習に取り組ませる。
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭のイラストを確認する。 	イラストについて質問することでこれから学習することを確認したり、よくわかっていない内容について認識させたりする。
展開	<p>発問例</p> <p>「普段勉強しているときに、どのような能力を身に付けようとしているかを意識しているか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で本文 p.58～60 を読み、気になったところに線を引く。 ・内容を確認する。（※①②発問例） ・Key Wordを確認する。 <p>「リカレント教育とは何か？」</p> <p>→働いている人がそれぞれのタイミングで仕事に必要な能力を磨くために学び直すこと</p> <p>①教科の勉強は役に立つのか</p> <p>発問例</p> <p>「学校の勉強は役に立たないと思ったことがあるか？」</p> <p>「普段はなぜ勉強をするのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスQにグループで取り組む。 <p>プラスQ</p> <p>「勉強は役に立たない」派と「勉強は役に立つ」派に分かれて、それぞれの主張を支持する根拠を考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合った内容について、グループ代表がクラスで発表する。 	<p>2章は「働く」ことに焦点を当てるが、今高校で学習していることが「働く」こととどのように関連しているかを意識させたい。</p> <p>自分なりに内容をまとめて整理・発表することで、内容を定着させる。</p> <p>事前学習で自分が大事だと思ったところに線を引くよう指示してもよい。</p> <p>出てきたキーワードについては内容を確認する。</p> <p>「何のために勉強するのか」について、あまり意識せずに過ごしている生徒が多いので、この機会に改めて勉強することの意味を考えさせるとよい。</p> <p>プラスQはグループメンバーを機械的に2派に分けて取り組ませる。</p> <p>発表する際には、それぞれの派の主張の根拠を述べさせる。</p>

<p>まとめ</p>	<p><u>2]問題を解く多彩なパターンを身につける</u></p> <p>発問例</p> <p>「教科の学習が実生活で役立った経験はあるか？」</p> <p>「教科の学習は仕事でどのように活かされると思うか？例を挙げてみよう」</p> <p><u>3]なぜ高卒と大卒で生涯賃金が 6,000 万円も違うのか</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p59 の学歴別の生涯賃金の違いを確認する。 <p>発問例</p> <p>「学歴や性別により生涯賃金が違うデータを見てどのようなことを思ったか？」</p> <p>「この生涯賃金のデータはどんな会社に勤めている場合のものか？途中で会社を辞めた人はどうなのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Work①に取り組む。(Work はまとめて行ってもよい) <p>設問 Work①</p> <p>「誰かから学ぶ能力」と「自分で学ぶ能力」について、それぞれの長所と短所を考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えた内容をグループやクラスで共有する <p><u>4]働きながら勉強する</u></p> <p>発問例</p> <p>「家族や知っている人で、社会人になってから勉強している人を知っているか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Work②, プラス Q に取り組む。 <p>設問 Work②</p> <p>「社会人には、大学や専門学校などでどのような学び直しの機会があるか調べよう。」</p> <p>プラス Q</p> <p>「リカレント教育を「マナパス」で調べてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Work②に取り組む。 <p>発問例</p> <p>「社会人の学び直しの講座を見て気づいたことはあるか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の振り返りを記入し、学習への取組について自己評価をする。 	<p>生徒ごとに教科を指定して考えさせて、発表させてもよい。</p> <p>大学に行く費用（400万円強）は将来の6,000万円の収入差への投資なので大学に行くべきだという結論だけにならないように注意したい。大学で身に付ける「自分で学ぶ能力」を高校でも身に付けるべく学習するように促したい。また、学歴だけでなく、企業規模の違いによる収入差や性別による違いについても考えさせたい。特に p59 のデータは企業規模ごとのデータではないため、大企業の高卒従業員と中小企業の大卒従業員との比較ではあまり生涯賃金に差がないことなどにも言及したい。</p> <p>https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/kako/2022/documents/useful2022_21_p316-361.pdf</p> <p>CASE 以外にも生徒が知っている芸能人などで大学や大学院で勉強し直している人などを紹介してもよい。</p> <p>学び直しについては、マナパス以外にも文部科学省の下記のページなども参照するとよい。</p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/manabinaoshi/index.htm</p> <p>Work②やプラス Q については、さまざまな取り組み例が挙げられるので、事前に調べたものを Google forms などで提出させて共有するとよい。</p> <p>学習の振り返りに記入をする。合わせて自己評価についても行っておくとよい。ABCなどで記すだけでなく、なぜそう自己評価するのかの理由を簡単に書かせるとよい。</p>
------------	--	--

Work① 「誰かから学ぶ能力」と「自分で学ぶ能力」について、それぞれの長所と短所を考えよう。

長所

【実習例】

- ・(誰かから学ぶ能力): お手本にしたい人を真似る力, 教わる力が基礎的なことを学ぶには向いている。
- ・(自分で学ぶ能力): 常にお手本にしたい人や教えてくれる人がいるわけではないので, 自分で学ぶ能力があれば, 常に学ぶことができる。

短所

【実習例】

- ・(誰かから学ぶ能力): 教えてもらうという受動的な姿勢だと, 新しい技術や知識を学びたいと思ったときにすぐに学べない。
- ・(自分で学ぶ能力): 知識や技術の基礎ができていなかったり, 能力が足りなかったりするとなかなか新しいことを学ぶことができなったり, 習得するまでに時間がかかってしまう。

Work② 社会人には、大学や専門学校などでどのような学び直しの機会があるか調べよう。

【実習例】

- ・職業実践力育成プログラム (BP) 認定制度
- ・キャリア形成促進プログラム
- ・ハورتレーニング (公共職業訓練・求職者支援訓練)
- ・放送大学